

令和6年度 専修大学熊本玉名高等学校「学校評価アンケート」の結果について

専修大学熊本玉名高等学校
校長 渡辺 正隆

本校では、令和7年3月に学校評価アンケートを実施しました。実施にあたりましては、多くの生徒及び保護者の皆様からご協力いただき、誠にありがとうございました。

この度のアンケートでは、学校生活全般・学習・生徒指導・進路指導など本校の教育活動全般にわたって評価していただきました。

これらの評価を真摯に受け止め、学校改善に取り組むとともに、次年度の学校教育づくりに努めていきたいと考えています。今後も保護者の皆様方の一層のご支援をお願いいたします。

○掲載内容

- ①生徒アンケート集計結果
- ②保護者アンケート集計結果
- ③本校教職員アンケート集計結果

令和6年度学校評価アンケート結果を受けて

令和6年度のアンケート結果のうち生徒を見てみると、大項目「学校生活全般」、「生徒指導」、「進路指導」、「特別活動」、「健康安全」で肯定的な割合が高く示されました。その中でも小項目「先生は、悩みや相談に親身になって対応してくれる」が昨年度よりもわずかですが上昇しています。「先生は生徒一人一人を大切にしている」は昨年度とほぼ同じ割合でした。一方で、「目的・目標を持って生活している」と答えた生徒の割合がおよそ14ポイント低下しています。このことは、全体的に肯定的な割合が減少していることにもつながっているのではないのでしょうか。その一方で「どちらでもない」と回答する生徒の割合が増えています。

令和6年度について、肯定的な答えが多い項目を見ると「挨拶をよくする」、「スマホ・ケータイを適切に使用している」、「先生は進路について適切な指導をしてくれる」、「学校行事に積極的に取り組んでいる」、「部活動が活発である」、「学校の安心メールの活用は適切である」が85%以上あるいはそれに近い割合を示しています。「学校生活は楽しい」としている生徒は80%を超えていますが、昨年度よりも2%程度下がっています。他にも「ボランティア活動に積極的に参加している」は78%の生徒が肯定的な答えです。この中で教員と答えが大きく異なるのが「スマホ・ケータイを適切に使用している」です。昨年度は授業中のスマートフォンの使用で指導を受ける生徒が多くいました。本校では、毎年、外部講師を招いて情報モラル講話を行い、情報機器の適切な使用を促しています。保護者の皆様のご協力もよろしくお願いします。

肯定的な割合が低い大項目「学習」では、60%程度の生徒が「学習に意欲的に取り組んでいる」と答えています。また、「進路実現に向けて自ら考え、行動している」生徒は70%ほどいます。最も割合が低かったのが「資格取得に積極的に取り組んでいる」の43.7%でした。本校では、ほとんどの生徒が部活動に所属しており、検定が行われる土曜日や日曜日は部活動の公式戦や遠征と重なります。以前に比べて英語検定や漢字検定、商業・情報関係の検定を受検する生徒が減少しているようです。検定担当者、部顧問と連絡を取り、生徒が積極的に資格取得できるように取り組んでいます。

保護者と教員のアンケート結果を見ると、「子どもは学校生活を楽しんでいる」で保護者80%とほぼ生徒と同じ割合でした。教員の回答は92%でした。「子どもは目的・目標をもって生活している」で保護者78%と生徒よりも高い割合で、昨年度の38%から大幅に増加しています。教員は69%でした。昨年度23.1%と最も割合が低かった「子どもは学習に意欲的に取り組んでいる」は今年度44.2%とほぼ倍になっています。本校では、生徒の学力や学習への取り組み、生徒のパーソナリティの傾向をはかる基礎力診断テストを令和3年度から実施しています。昨年度は進学指導部、数学科、英語科の指導の下、ある一定の学習到達ゾーン（GTZ）の生徒に対して補習を行いました。補習を受けたほとんどの生徒で学習到達ゾーンが上昇しました。今年度は、すでに第1回を実施し、試験前には数学科と英語科で補習を行いました。本校では、基礎力診断テストを通して生徒の学習へのモチベーションを向上させるよう取り組んでいます。

尚、保護者から頂いたご意見は、真摯に受けとめ検討させていただきます。全職員で改善し、次年度に活かしていきたいと思えます。

引き続き皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。